ボールパーク構想推進に係る市民説明会①
【質疑応答・意見交換記録】

日時／令和 2 年 2 月 18 日（火）18：30～20：00
会場／北広島市芸術文化ホール活動室　参加／63 名

□ 質問・意見内容　➡ 北広島市回答　⇨ ファイターズ回答

＜質疑応答＞

□ **今後大規模な工事が集中して行われますが、工事作業員は何人くらいになるのでしょうか。**

➡ 市が行う道路工事だけではなく、スタジアム工事も同時期に行われることから具体的な人数は現段階では明らかになっていません。しかし、工事の主体に関わらず、作業員の方の移動などについて周辺の安全の確保を徹底することを関係機関同士で確認しているほか、スタジアムの工事を行うゼネコン業者には、作業員の方の昼食の手配なども含め、地元にお金が流れるよう配慮していただくことを申し入れています。

□ **温浴施設は、スタジアム内に設置されるものだけになるのでしょうか。エリア内に足湯や他の施設があってもいいと思うのですが。**

⇨ 球場施設内には 1 か所ですが、球場以外の建物や機能の詳細についてはこれから本格的に決定していきます。それに伴い、他の温浴施設ができる可能性もあります。

□ **世界に誇ることができるプロジェクトであると思っており、もっと地元の民間企業が参入できるようにならないでしょうか。**

➡ 市の民間事業者の関わりには 2 通りあると考えており、ひとつは工事期間において建設関係事業者の関わりが生じること、もうひとつは開業後、共に空間を作っていくことです。現在も球団や市に様々なお話がありますし、当然地元の皆さんと積極的に関わっていきたいとの思いです。お持ちのアイデア等はぜひお話しください。

□ **建設予定地の粗造成が完了していますが、環境調査時に確認されたエゾサンショウウオやザリガニなどはどうなったのでしょうか。**

➡ エゾサンショウウオやザリガニなどの希少種については、専門家に意見をいただきながら移植などの対応を行ってきました。

□ **球場内に宿泊機能を設けるとのことでしたが、都市公園法において、公園内に宿泊施設を設けることは禁じられているのではないでしょうか。**

➡ 近年、都市公園法の解釈は変化してきており、球場などへの付帯施設としての宿泊機能も認められています。これらについては逐次国等に確認しながら進めています。

□ **費用面が気になります。説明の中で市債の発行とありましたが、これはどのようなことを意味するのでしょうか。**

➡ 市債は、当該年度の人たちだけではなく、将来にわたりその恩恵や価値を受ける事業に対して発行が認められており、その費用を 20 年や 25 年かけて償還する制度です。市債の発行額はある意味借金の額と変わりはないのですが、北広島市は一般財源の規模に対する公債費の比率が 4%と全道でもトップクラスに低い数値となっており、健全な財政運営がなされています。これは、北広島駅周辺整備から新庁舎の建設までの間、大きな公共事業を行ってこなかったことなどによるものですが、それらを鑑みながら、ボールパーク事業に関するインフラ整備内容を検証してきました。

また、北広島市は市内に水源がなく決まった量の水を買っているため近隣市町村よりも水道代が高いと言われてきておりますが、将来的に人口減少が進むと各家庭における負担額もさらに増えていくことが想定されます。しかし、ボールパークの各施設において水の使用量が増えると、市民負担の軽減が図られることも想定され、今後は市民にとってそのような面での好影響も期待されるとこです。

□ **スタジアム開業時には十分な駐車場の数があっても、今後の他の施設の建設によって少なくなっていくのではないでしょうか。**

⇨ 今後、駐車場の台数を確保することを前提として開発を進めていきます。開業当初は平面の駐車場を予定していますが、開発段階によってそれらを立体にするなどの手法をとっていくことを想定し、関係事業者との協議を進めていきます。

□ **ニュースで大学を誘致すると出ていましたが、その話はどうなっているのでしょうか。**

⇨ 大学を含め、様々な年代層の教育に資する機能を有したいという思いは変わっていません。今現在、特定の機能が決定していることはありませんが、各種協議は行っています。

➡ 大前提として、ボールパークエリア内にどのような機能を設けるか、誘致していくかの検討は市と球団とで共同で行うものであり、お互いに対等な立場で協議しています。どのような機能があれば、市の成長やまちづくりにつながるかの視点をお互いに持ち、協議を進めているところです。

□ **交通アクセスについて、新駅整備や西裏線の完成により 35,000 人のアクセスが可能になるのでしょうか。それまでの間の交通体系が不安です。**

➡ 関係各社との協議により、2023 年の開業時においても最大 35,000 人の輸送が可能な分担率を導き出しています。これは実現可能な数字とみており、各交通分野においてそれぞれの分担率をカバーする方策の検討を進めています。

□ **大曲椴山線につながるアクセス道路を整備するとのことですが、大曲椴山線自体の道路や橋梁が狭いものだったと記憶しています。これらの整備は行わないのですか。**

➡ 大曲椴山線については、現在すでに整備を進めており、2023 年のボールパーク開業時には、拡幅工事が完了している予定です。

＜意見交換＞

□　**駐車場や、周辺の親水空間などの管理・運営を市の観光協会や商工会が担うことで、独自収入が増え、結果的に市からの補助金などが少なくなると思います。そのような仕組みは取れないのでしょうか。**

➡　駐車場や親水空間の管理運営は、その所有者となる球団側が管理運営していくことが前提ですが、商工会や観光協会では、ボールパークと自らがどのような関わり方ができるか、何を得ることができるかを検討しており、その中に市も入りながら議論を進めています。

⇨　駐車場については、ただ車を停めるための施設ではなく、いかにして長く停めてもらい入退場の集中を分散させるかが渋滞対策として重要になってきます。ボールパークエリア内の取組と、駐車場の運営を連動させることでより時間分散策が効果的になると考えておりますので、そのオペレーションについては今後も球団として検証を重ねていきます。

□　**新駅完成まで７年、８年かかると言われていますが、球場同様にネーミングライツなどにより民間企業からの資金調達を図り、早期開業を目指してほしいです。**

➡　新駅については請願駅であることから、請願者である市側が整備費用を負担することとなっていますが、その資金調達の方法は自由です。早期に新駅設置が実現できるよう、今後も民間事業者との連携や協議を進めていきます。

□　**北広島高校は老朽化しており、今後建て替えなどの検討も行われると思います。移転を視野に入れ、早い時期に他の適地を探し、ボールパークエリアを広くすべきではないでしょうか。**

➡　歴史があり、北広島市にとって大事な高校であり、市は軽率に移転などを口にする立場にありません。高校として来訪者が増えることによる心配事があること、またボールパークとどのように共生できるか、新駅の実現などにより新たな魅力が高まることへの期待など、多方面において意見交換を行いながら協議を進めています。

□　**大曲椴山線につながるアクセス道の整備については、北海道により整備がされる予定ですが、北海道の政策評価委員会にて付帯意見が付いたことは忘れないでほしいと思っています。特に野幌原始林については、大切に保全していってほしいです。**

➡　野幌原始林は、市にとっても、北海道にとっても大変重要なものと認識しており、今後有識者を交えて保存活用計画を策定することとしており、未来永劫保全していきます。

□　**交通アクセスの向上のため、新札幌駅から地下鉄を延伸してはどうでしょうか。**

➡　現実的に考えたときに、今手を付けるものではないと認識しています。交通アクセスについては、道路管理者や警察、近隣市町村、交通事業者等と連携を深めながら、今できる対応策について共に協議を進めています。